

# 博多港湾・空港整備事務所の事業概要

国土交通省 九州地方整備局

博多港灣・空港整備事務所長 玉石 宗生



博多港の全景

## 1. はじめに

博多港湾・空港整備事務所は、九州最大規模を誇る「博多港」、有明海沿岸域ともアクセスの良く、背後地域産業の生産活動を支える「三池港」、国内有数の玄関口である「福岡空港」の整備を担当しており、九州とアジアをつなぐゲートウェイとして、物流・人流を支えています。

## 2. 博多港の概要

博多港は、貨物・旅客ともに多くの国際・国内定期航路を有し、九州・西日本の物流や人流を支える重要な港湾として機能しています。当事務所では、こうした博多港の役割強化

に向けて、様々な整備を進めています。中央ふ頭地区において、2018年には岸壁の延伸が完成し、22万トン級の大型クルーズ船の受け入れが可能となりました。また、アイランドシティ地区において、国際コンテナターミナルの整備を進めており、2021年には滞船の解消を目的とした岸壁の延伸が完成しています。現在、中央航路地区において、航行する船舶の安全を確保するため、航路の浚渫工事のほか、香椎パークポート地区、箱崎ふ頭地区において、施設の老朽化対策として、岸壁の改良を行っています。

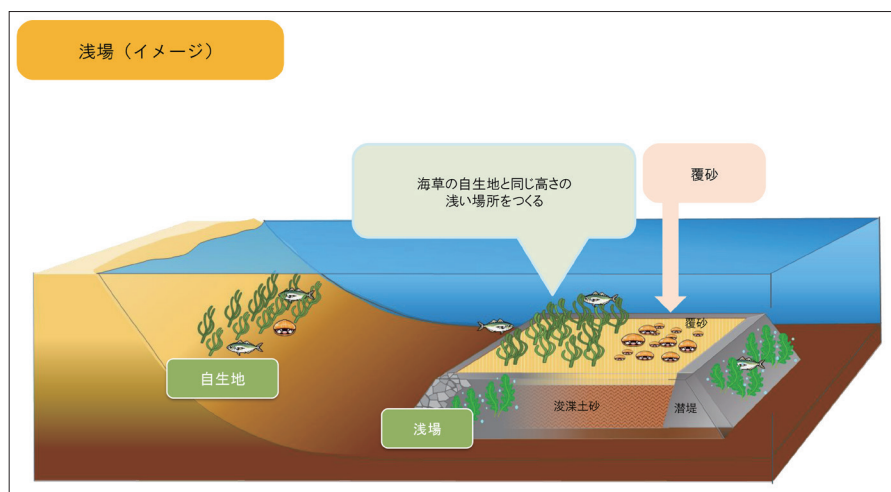
なお、浚渫により発生した土砂は地域の声を受け止めながら港内の窪地の埋め戻しに有効活用し「環境改善」を図っています。こうした取組の一環として、2023年には豊かな博多港を目指し、有識者等を交えた意見交換会が立ち上げられ、活発な議論が交わされました。その成果は、同年10月に開催された「全国アマモサミット2023 in ふくおか」において、九州地方整備局より発表を行っており、その後、浚渫土砂を活用した浅場造成に2024年度より着手しています。

### 3. 三池港の概要

三池港は、三井鉱山の私有港として開港後、1951年に重要港湾に指定され、周辺の地域経済を支える重要な港湾として機能しています。三池港が地域にもたらす効果について、2023年度に分析したところ、大牟田市内に年間約1,029億円もの経済波及効果があることが明らかになりました。現在、内港北地区において、航路の浚渫工事を行っています。

### 4. 福岡空港の概要

福岡空港は、福岡市中心部に近接した利便性の高い立地にあり、西日本の拠点空港として重要な役割を担っています。しかし、その利用状況は逼迫しており、滑走路1本あたりの発着回数は全国第1位となるなど、航空機の混雑や遅延が深刻な課題となっていました。こうした状況を踏まえ、既存ストックを有効活用し、混雑緩和を図るため、平行誘導路の二重化整備およびこれに伴う国内線ターミナ



ルビル等諸施設の移転整備に着手し、2013年5月に工事を開始、2020年1月に供用を開始いたしました。さらに、今後の航空需要のさらなる増加に対応すべく、2015年より滑走路増設事業にも着手しました。本事業は、航空機の運航に支障を来さないよう、夜間の限られた時間帯での作業という制約の中で施工が行われました。そして、2025年3月20日より新滑走路の供用を開始し、滑走路の処理能力が大幅に向上したことで、混雑や遅延の

緩和が図られました。これにより、空港全体の機能が強化され、地域経済の活性化や国際交流のさらなる発展が期待されています。

### 5. おわりに

今後も、国内外の著しい社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、アジアのゲートウェイとしての機能を活かし、産業の発展を力強く支えることで、日本経済の活性化や地域振興に貢献できるよう取り組んでまいります。

